

JGA

Japan Generic
Medicines Association

NEWS

2022年 令和4年

12月 | 176号

C O N T E N T S

topics

トピックス

- 01 地域フォーミュラリの浸透、
ジェネリック業界にも影響か
株式会社じほう 編集局日刊薬業編集部 大塚 達也 氏



会員会社だより

- 03 マイラン製薬株式会社

information

お知らせ

- 04 JGApedia GE薬協コラム 第15弾
【Factに迫る!】『KPI経営』について
広報委員会
- 05 アーカイブ配信GE薬協主催「ジェネリック医薬品の
信頼回復に向けた取組み」に関する説明会(収録動画)
広報委員会

- 06 供給状況情報提供ページ『製品の供給状況について』
バナー新設
広報委員会
- 07 健康保健組合連合会大阪連合会での講演について
広報委員会
- 08 健康保健組合への説明会について
広報委員会
- 09 令和4年度奈良県後発医薬品安心使用促進協議会について
- 10 富山県、富山県医薬品工業協会ジェネリック委員会
ジェネリック医薬品研修会について

知っ得!豆知識

11 電子処方箋について
広報委員会

- 14 活動案内

- 15 編集後記

「勝負はこれから。」



Japan Generic Medicines Association
日本ジェネリック製薬協会

ジェネリックで拓く、医療の未来。

地域フォーミュラリの浸透、 ジェネリック業界にも影響か

株式会社じほう

編集局日刊薬業編集部 大塚達也 氏

国内各地で徐々に地域フォーミュラリが浸透している。10月30日に行われた第1回日本フォーミュラリ学会学術総会で、同学会の今井博久理事長はすでに15カ所以上の地域でフォーミュラリを実施したり、実施に向けた検討が行われていると説明した。地域フォーミュラリについては財務省も薬剤費適正化につながる取り組みとして紹介しており、こうした動きがさらに加速していけばジェネリック医薬品業界にも影響を及ぼす可能性がある。

地域フォーミュラリは、安全性、有効性に加えて経済性も加味して同一地域内における標準的な薬物治療を確立する取り組みで、患者アウトカムを向上させながら薬剤費を抑制し、さらには医薬品管理の効率化も期待できるため、近年同時多発的に導入を検討する事例が増えている。

学術総会で今井理事長が提示した資料によると、北海道北部の上川北部医療連携推進法人や山形県酒田地区の日本海ヘルスケアネット、大阪府八尾市、兵庫県丹波市地区など、15カ所以上で地域フォーミュラリを導入したり、導入を本格的に検討している。今年度内にはさらに採用・検討する地域が拡大する見込みだ。

病院単位の院内フォーミュラリも含めたフォーミュラリを巡る議論としては、2017年の厚生労働省の中央社会保険医療協議会において推進の提案が上がって以降、2020年度薬価改定、2022年度薬価改定に向けた中医協でも導入が俎上に載った。ただ、処方権の侵害や診療報酬としての手当ての是非などが懸念の材料となり、結局、診療報酬への組み入れは見送られた。

ただ、財務省は今年4月の財政制度等審議会財政制度分科会で示した資料において、医療費適正化計画の見直しとして都道府県が努力すべきポイントの一例に地域フォーミュラリの策定を挙げた。10月の厚労省の社会保障審議会医療保険部会でも、第4期医療費適正化計画（2024～29年度）に関する議論で、保険者側が「フォーミュラリによる薬物治療の標準化に取り組むべき」と訴えた。現段階では、政策としてどこまで地域フォーミュラリが推奨されるかは未知数だが、今後、医療費適正化効果が如実に確認されたり、実際に何らかの加算が付いたりするようになれば、一気に導入が加速することも予想される。

フォーミュラリの策定においては、薬価は当然ながら、安定供給体制の整備状況やその開示状況なども同一成分内での差別化のポイントになり得る。原薬の調達状況から製造規模、配送拠点の立地なども評価される可能性があり、積極的に安定供給に取り組んだ企業の製品が優先されることになる。逆に言えば、フォーミュラリの採用が進めば進むほど、安定供給の体力のない企業の製品は淘汰されていく。

11月には米子会社の事業で多額の損失が発生し債務超過に陥ったジェネリック大手日医工が投資ファンドのジェイ・ウィル・パートナーズと医薬品卸のメディパルホールディングスが出資する合同会社ジェイ・エス・ディーの子会社となり、来春にも上場廃止する見通しとなったことを発表した。厚労省の「医薬品の迅速・安定供給実現に向けた総合対策に関する有識者検討会」でも産業構造の在り方が論点の1つになっている。これまで幾度となくささやかれてきた業界地図の変革が徐々に現実味を帯びる中、地域フォーミュラリの浸透もその原動力の1つになるかも知れない。

マイラン製薬株式会社 (ヴィアトリス・ジャパングループ)

ヴィアトリス・ジャパングループは、マイラン製薬株式会社、ヴィアトリス製薬株式会社、ファイザーUPJ合同会社、マイランEPD合同会社の四法人として事業を展開しており、広範な治療領域において、先発医薬品、バイオシミラー、オーソライズド・ジェネリック (AG)、ジェネリック医薬品など300種類以上の医薬品を提供しています。

グローバルにおけるViatris (ヴィアトリス) は、2020年11月にファイザーのアップジョン事業部門とマイランの統合で誕生した新しい製薬会社です。ヴィアトリスは、ヘルスケアのあるべき姿を目指しています (we see healthcare not as it is, but as it should be)。ヘルスケアのニーズが変化していく社会において、勇気を持って行動し、安定をもたらす独自のポジションを確立することをミッションとしています。世界中の誰もが、人生のあらゆるステージで、より健康に生きられるよう、特に「アクセス」「リーダーシップ」「パートナーシップ」の面から貢献できるように事業活動を営んでいます。

ヴィアトリスの設立にあたり、上記のミッションを大切にしながら、旧ファイザー社アップジョン事業部と旧マイランの事業の統合に向けた様々な作業を一つ一つ進めてきました。会社統合に係る作業は、まもなく完了する予定です。ヴィアトリス・ジャパンでは大切にすべきいくつかのキーワードがありますが、その中でも「Respect each other (Inclusive) : 相互尊重 (他者受容)」は、統合作業を進めるうえでとても重要なキーワードでした。コロナ禍でなかなか実際に顔を合わせることが困難な状況にはありましたが、ヴィアトリス・ジャパングループのカントリーマネージャーであるソナ・キムのもと、私たちがどのようにあるべきか、何をすべきかについて何度も議論を重ねました。結果、自分の思いや悩みを伝えやすい風通しの良いカルチャーとなり、統合作業等の様々な苦難や困難に対し社員一丸となって挑戦し、乗り越えることができました。

今後もマイラン製薬は、ヴィアトリスグループだからできるグローバル規模での医薬品開発・製造能力を最大限活用し、先発医薬品、バイオシミラー、AG、ジェネリック医薬品の多岐にわたる医薬品の提供を通じ、日本の医療に貢献してまいります。

JGApedia GE薬協コラム 第15弾 【Factに迫る！】『KPI経営』について

岸田内閣の「新しい資本主義」では、5年間で1兆円を投じる「人への投資」が注目されています。人的資本経営で、この「人への投資」と企業価値向上のつながりの中で、人的投資の関連指標として、KPI (Key Performance Indicator : 重要業績評価指標) が重要です。

今回、『KPI経営 (マネジメント)』とマネジメントに関連して『当事者研究 (多様性のマネジメント改革)』についてご紹介いたします。

<GE薬協コラムはこちらから！>

<https://www.jga.gr.jp/jgapedia/ge.html>

The graphic features the title "KPI経営" in large, bold, dark blue characters. Below it is the subtitle "~人的投資・KPI・企業価値のつながり~" in a smaller, black font. At the bottom, there are three blue arrow-shaped boxes pointing to the right, containing the text "謙虚なリーダーシップ", "職場の心理的安全性", and "知識の共有" respectively.

KPI経営

～人的投資・KPI・企業価値のつながり～

謙虚な
リーダーシップ

職場の
心理的安全性

知識の
共有

アーカイブ配信

GE薬協主催「ジェネリック医薬品の信頼回復に向けた取組み」に関する説明会（収録動画）

2022年11月22日（火）に開催いたしました、健康保健組合様を対象とした「ジェネリック医薬品の信頼回復に向けた取組み」に関するWEB説明会の収録動画をGE薬協公式YouTubeチャンネルに掲載いたしました。少しでも多くの皆様にご覧いただき理解と安心につながりましたら幸いです。

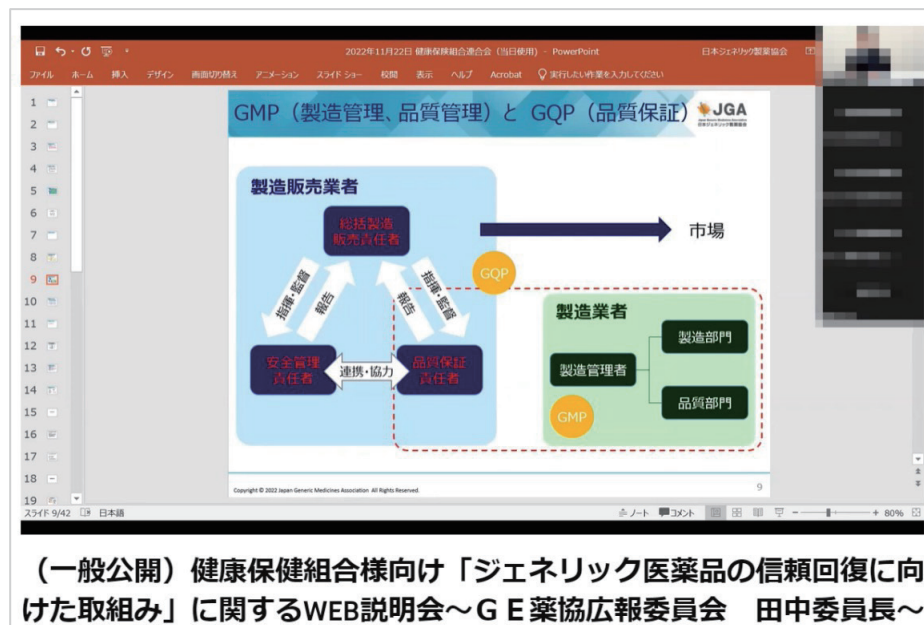
<YouTubeリンク>

（一般公開）健康保健組合様向け

「ジェネリック医薬品の信頼回復に向けた取組み」に関するWEB説明会

<https://www.youtube.com/watch?v=L6JGmuODTxM>

（イメージ）



【日本ジェネリック製薬協会公式YouTubeチャンネル】

<https://www.youtube.com/@user-id9gn3mr5r/videos>

※チャンネル登録をいただくと、ライブ配信のリマインド通知等、最新情報の取得が可能です。

供給状況情報提供ページ 『製品の供給状況について』バナー新設

GE薬協WEBサイトのトップページに、供給状況情報提供ページ『製品の供給状況について』のバナーを新たに設置いたしました。ぜひ多くの皆様にご活用いただけましたら幸いです。

<『製品の供給状況について』バナー設置のお知らせ>

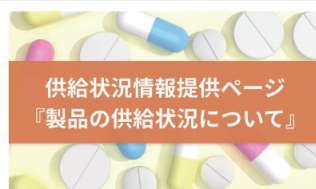
https://www.jga.gr.jp/news/221129_004950.html

(イメージ)

※トップページを下にスクロールいただくと、バナーコーナーがございます。



ジェネリック医薬品業界で一体何が起きたのか？そして未来に何が起こるのか？鷹の爪団が導き出す真実とは？



供給状況情報提供ページ～メーカーの最新情報をタイムリー更新！～
(成分・製品名検索が可能)



当協会の取り組みやジェネリック医薬品の解説などを動画でご覧いただけます。(最新：小学生向けコンテンツ『おくすり大百科～目指せ！おくすり博士～』公開中！)

健康保健組合連合会 大阪連合会での講演について


講演日時：2022年10月19日（水）13:30～14:00

場 所：WEB収録形式

※後日、健康保健組合連合会 大阪連合会様指定のWEBサイトにてオンデマンド配信

講 師：田中 俊幸 氏（日本ジェネリック製薬協会 広報委員会委員長）

概 要：健康保健組合役職員の皆さまを対象に「『ジェネリック医薬品に対する信頼の回復』に向けた日本ジェネリック製薬協会の取り組みについて」について説明しました。




「ジェネリック医薬品に対する信頼の回復」に向けた 日本ジェネリック製薬協会の取り組みについて

令和4年10月19日
健康保険組合連合会 大阪連合会
日本ジェネリック製薬協会
広報委員会 田中俊幸

Copyright © 2022 Japan Generic Medicines Association All Rights Reserved.

1

本日の内容



- ① 医薬品の「製造管理・品質管理」について
- ② 「ジェネリック医薬品に対する信頼の回復」に向けた
日本ジェネリック製薬協会の取り組みについて

Copyright © 2022 Japan Generic Medicines Association All Rights Reserved.

2

健康保健組合への説明会について

講演日時：2022年11月22日（火）14:00～15:30

場 所：WEB会議形式（ZOOM）とYouTube視聴の同時配信。

講 師：田中 俊幸 氏（日本ジェネリック製薬協会 広報委員会委員長）

概 要：健康保健組合の皆さまを対象に「『ジェネリック医薬品に対する信頼の回復』に向けた日本ジェネリック製薬協会の取組みについて」について説明しました。

説明後、以下のご質問を頂きました。

- GE薬協の権限を強化しないと本来のガバナンスの強化につながらないのではないか。罰則規定を設けてもよいのではないか。現在起きている問題を契機として取り組んで頂けないかと思う。
- 自主点検の最終結果について。当局相談予定の品目は現在、流通しているのか。大きなリスクはないと言われても保険者としてとてもたまったものではない。保険者は安心・安全のジェネリック医薬品ということで加入者に対して推進をしている。命に関わるものは絶対に安心でなくてはならない。
- 原薬製造所の海外依存に関して。例えば、HPを見ると、大手の沢井製薬は5割以上を海外に依存している。そういった所の管理体制は問題ないのか。信じてよいのか。

<参考>

【YouTubeリンク】

（一般公開）健康保健組合様向け

「ジェネリック医薬品の信頼回復に向けた取組み」に関するWEB説明会

<https://www.youtube.com/watch?v=L6JGmuODTxM>

令和4年度奈良県後発医薬品安心使用促進協議会について

開催日時：2022年11月30日（水）14:00～16:00

場 所：WEB形式

議 題：(1) 協会けんぽ奈良支部におけるジェネリック医薬品の使用状況（全国健康保険協会奈良支部）
(2) 令和4年度の取組みについて（薬務課）
(3) 奈良県における後発医薬品使用促進の取組みについて（医療保険課）
(4) 「ジェネリック医薬品に対する信頼の回復」に向けた日本ジェネリック製薬協会の取組みについて（日本ジェネリック製薬協会）
(5) 令和5年度の取組みについて（薬務課）

説 明 者：田中 俊幸氏（日本ジェネリック製薬協会 推薦委員）

概 要：当該協議会において、GE薬協推薦委員（GE薬協広報委員会委員長）の田中 俊幸氏より「『ジェネリック医薬品に対する信頼の回復』に向けた日本ジェネリック製薬協会の取組み」について説明しました。

講演の前後で出た「ご質問・ご意見」を以下にご紹介させていただきます。

- （GE薬協が実施した「製造販売承認書と製造実態の自主点検」について）問題が無かったのは点検品目数の内、何品目だったのか？
- （品質問題を未然に防ぐことを目的とした）製造所に対する外部監査について、対応先が見つからなかったのは何故か？
- 厚生労働省医政局医薬産業振興・医療情報企画課の安藤公一課長より話題に出ていた「医薬品供給情報の把握（義務化）」について、その後、法案は通過したのか？
- 上記の通り、国の動向がある中で、昨今、共和薬品工業株式会社から供給停止の案内が出た際、その理由について“諸般の事情”としか記載がなく、“全く信用ならない”との印象を持った。
- 種々の問題を踏まえ、ジェネリック医薬品業界に対しては、“抜本的なビジネスモデルの見直しが必要”と考える。
- このように説明の場を設けていただいたことには感謝するが、正直、“前回の議論からの進捗があまり感じられない”。
- “医療現場が安心して使える”ようになるまでには、あとどのくらい時間がかかるか？
- GE薬協の取組み、国の動向等についてよく理解出来た。ぜひ頑張ってほしい。宜しく願い致します。

富山県、富山県医薬品工業協会ジェネリック委員会 ジェネリック医薬品研修会について

開催日時：2022年12月3日（土）14:00～15:30

場 所：WEB形式

講 師：田中 俊幸 氏（日本ジェネリック製薬協会 広報委員会委員長）

概 要：当該研修会において、日本ジェネリック製薬協会広報委員会委員長の田中俊幸氏より「『ジェネリック医薬品に対する信頼の回復』に向けた日本ジェネリック製薬協会の取組み」について説明しました。

参加者の皆様の「ご質問・ご意見」を以下にご紹介させていただきます。

- 演題予定の「信頼回復」以前に安定供給がされていなかったり、急に販売中止したりといったことに対する説明をしてほしい。この最低限のことが出来てから信頼回復の取組みの説明になると思う。
- ジェネリック医薬品がかなり普及してきた。品質を保つ意味でも最低価格を決めて業者を守ることでも必要では？そろそろ医療費を抑える方法は別の観点に切替える時では？
- ステロイドなどの外用剤だが、原料の高騰で販売が次々に中止になっている。包装単位も大きなものしか無くなってきているが、今後も続くのか？
- いつ頃、安定供給されるようになるのか予測がつくなら教えてほしい。
- ジェネリック医薬品の出荷調整により、先発医薬品を使わざるを得ない状況になっている。この混乱はいつ頃まで続くのか？
- ジェネリック医薬品の流通について、まだ不安定と言わざるを得ない状況だと思う。今後の見通しについて、教えてほしい。
- 毎年薬価改定で薬の値段が安くなりジェネリック医薬品メーカーの利益も下がることが予測される。採算が取りにくい環境で品質の向上を求められているが、品質よりも供給や利益を優先してしまう事態への対応を伺いたい。



電子処方箋について

電子処方箋事業は10月31日よりモデル事業が開始され、令和5年1月に本格導入されます。それに伴って、本稿では間もなく導入開始となる電子処方箋について説明いたします。

電子処方箋とは、データヘルス改革の一環として、これまで紙でやりとりしていた処方箋をオンラインで連携する仕組みです。複数の医療機関・薬局にまたがる過去の薬の情報を医師・薬剤師と共有することができ、重複投与や飲み合わせの確認等、今まで以上に正確で、安心・安全な医療サービスを目指すものです。

電子処方箋では、オンライン資格確認等システムを基盤とした「電子処方箋管理サービス」を通して、医師・歯科医師、薬剤師が処方箋をやり取りします。医師・歯科医師が処方箋を「電子処方箋管理サービス」に送信し、薬剤師がその処方箋を薬局のシステムに取り組み調剤します。調剤後、薬局は調剤結果を「電子処方箋管理サービス」に送信します。

電子処方箋管理サービスの利用には、①オンライン資格確認の導入、②電子署名等（例：HPKIカード^{※1}）の取得が必要となります。なお、①オンライン資格確認の導入につきましては2023年4月以降、原則義務化とされております。

※1：HPKIとは、保健医療福祉分野の公開鍵基盤（Healthcare Public Key Infrastructure）の略称で、医療現場において、公的資格の確認機能を有する電子署名や電子認証を行う基盤です。厚生労働省において基盤の設置要件等を策定しており、現在は日本医師会、日本薬剤師会、医療情報システム開発センターにおいて、医師等の資格確認を行うためのHPKIカードを発行しています。

電子処方箋を用いるメリットは様々です。

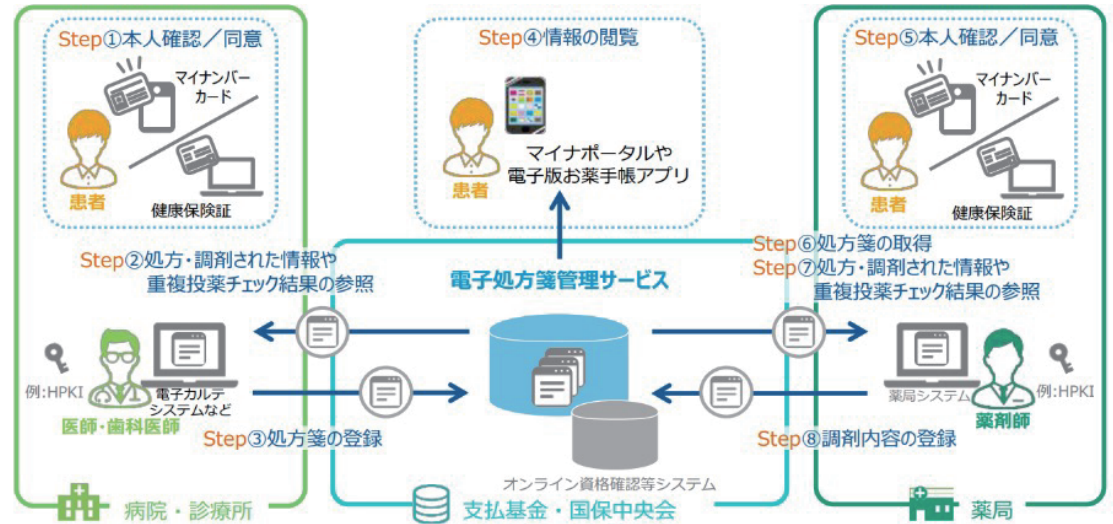
まずは、直近のデータを含む患者の過去3年分の薬のデータが閲覧できます。医師・歯科医師、薬剤師はこれにより、患者の記憶に頼ることなく、より正確な情報を基に診察・処方・調剤を実施できます。

処方・調剤する薬の重複投与・併用禁忌に関する情報を電子処方箋管理サービスでチェックして、その結果をシステム上で確認することができます。また、医師・歯科医師、薬剤師間での処方意図や調剤結果の共有にも活用でき、連携強化も期待できます。

その他、電子処方箋発行の際、サービス上で処方箋発行の不備を確認することができるため、形式的な不備による問合せ件数の削減にもつながります。薬局においては、電子処方箋を受け付けた場合には、紙の処方箋を物理的に保管する必要がなくなるため、保管スペース確保やファイリング作業が不要となります。



実際に電子処方箋を使用するステップは以下の通りです。



図：厚生労働省HP令和4年度第1回オンライン説明会「そうだったのか、電子処方箋」説明資料より

• Step1：患者による「本人確認/同意」（医療機関）

患者は医療機関の受付で処方箋の発行形態を電子もしくは紙から選択します。

• Step2：医師・歯科医師による「処方・調剤された情報や重複投与チェック結果の参照」

医師・歯科医師は、処方箋の発行形態（電子・紙）に関わらず、処方する薬が過去の薬と重複していないか、併用禁忌ではないか等を「電子処方箋管理サービス」にて確認します。

• Step3：医師・歯科医師による「処方箋の登録」

医師・歯科医師は、確定した処方内容を電子処方箋管理サービスに登録します。電子処方箋を発行する場合には、電子署名で署名します。電子処方箋を発行した場合には、「処方内容（控え）」を、紙の処方箋を発行した場合には、従来通り、紙の処方箋を患者に渡します。

• Step4：患者による「情報の閲覧」

電子処方箋管理サービスに蓄積された処方薬のデータは、マイナンバーカードを用いてマイナポータルを経由することで患者自身がオンラインで閲覧することができます。

また、電子版おくすり手帳アプリを用いて引換番号と被保険者番号等を薬局に事前送付することで紙の処方箋の撮影・登録の手間の削減や、待ち時間短縮につながります。

• Step5：患者による「本人確認/同意」（薬局）

マイナンバーカードによる受付の場合、患者は顔認証付カードリーダー上で過去のお薬情報の提供に同意するかを選択、併せて患者自身が医療機関で電子処方箋を選択した場合は、調剤対象の当該処方箋を選択すると、電子ファイルが薬局システムに取り込まれます。

健康保険証による受付の場合には、引換番号を提示し、被保険者番号などを基に薬局システムに処方箋を取り込みます。



・ Step6 : 薬剤師による「処方箋の取得」

薬剤師は処方箋の電子ファイルを取り込むタイミングで、電子処方箋管理サービスにて、今回処方された薬が過去の薬と重複していないかをチェックし、当該結果も併せて取り込みます。

・ Step7 : 薬剤師による「処方・調剤された情報や重複投薬チェック結果の参照」

患者からの同意がある場合、薬剤師は過去の薬に関するデータを参照できます。

・ Step8 : 薬剤師による「調剤内容の登録」

調剤後は、調剤内容を含む電子ファイルを電子処方箋管理サービスに送信します。

なお、電子処方箋を受けつけた場合は、薬剤師の電子署名が必要となります。

<参考>

○厚生労働省：電子処方箋

<https://www.mhlw.go.jp/stf/denshishohousen.html>

○厚生労働省：令和4年度第1回オンライン説明会「そうだったのか、電子処方箋」説明資料

<https://www.mhlw.go.jp/content/11120000/000975529.pdf>

○厚生労働省：HPKI認証局運用規約関連資料・証明書類

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/johoka/pki-policy/repository.html



(令和4年11月30日現在)

日誌

開催日	委員会	開催場所	WEB併用	
11月	1日	品質委員会(幹事会) 品質委員会全体会議	日本ジェネリック製薬協会会議室 〃	○ ○
	2日	知的財産委員会	WEB開催のみ	○
	7日	国際委員会	日本ジェネリック製薬協会会議室	○
	8日	総務委員会	〃	○
	10日	広報委員会コミュニケーション広報戦略部会	〃	○
	15日	信頼性向上PJ常任委員会 政策委員会政策実務委員会	WEB開催のみ 日本ジェネリック製薬協会会議室	○ ○
	16日	薬制委員会(幹事会) 薬制委員会全体会議	WEB開催のみ 〃	○ ○
	17日	正副会長会 理事会	日本ジェネリック製薬協会会議室 〃	○ ○
	21日	くすり相談委員会 広報委員会ニュース・講演部会	〃 〃	○ ○
	22日	薬価委員会(幹事会) 薬価委員会運営委員会 安全性委員会(幹事会)	〃 〃 WEB開催のみ	○ ○ ○
	24日	薬事関連委員連絡会 COP委員会	〃 日本ジェネリック製薬協会会議室	○ ○
	25日	信頼性向上PJ常任委員会	WEB開催のみ	○
	28日	販売情報提供GL研修会 広報委員会(幹事会)	CIVI研修センター日本橋会議室 日本ジェネリック製薬協会会議室	○ ○
	29日	倫理委員会	WEB開催のみ	○
	30日	信頼性向上PJ(MR教育研修検討チーム) 総括製造販売責任者会議	日本ジェネリック製薬協会会議室 WEB開催のみ	○ ○

今月の予定

開催日	委員会	開催場所	WEB併用	
12月	1日	信頼性向上PJ常任委員会	WEB開催のみ	○
	2日	環境委員会	〃	○
	5日	知的財産委員会	〃	○
	6日	総務委員会	日本ジェネリック製薬協会会議室	○
	7日	広報委員会コミュニケーション広報戦略部会 バイオシミラー委員会 国際委員会	〃 WEB開催のみ 日本ジェネリック製薬協会会議室	○ ○ ○
	9日	薬価委員会(幹事会)	〃	○
	12日	品質委員会(幹事会)	〃	○
	13日	信頼性向上PJ常任委員会	WEB開催のみ	○
	15日	正副会長会・理事会	日本ジェネリック製薬協会会議室	○
	16日	流通適正化委員会 広報委員会(幹事会)	〃 〃	○ ○
	20日	政策委員会政策実務委員会 薬価委員会(幹事会)	〃 〃	○ ○
	21日	薬制委員会(幹事会) 広報委員会ニュース・講演部会	WEB開催のみ 日本ジェネリック製薬協会会議室	○ ○
	23日	安全性委員会(幹事会)	WEB開催のみ	○

下記のとおり、事務所を閉所いたしますのでご協力のほどお願い申し上げます。

令和4年12月29日(木)～令和5年1月3日(火)



勝負はこれから。

今年は、サッカーワールドカップカタール大会で、日本代表が日本人に“感動”と“勇気”と“活力”を与える素晴らしい試合を魅せてくれた。これには、中国メディアなど他国からも日本代表の快進撃を大絶賛する声が相次いだという。

良い試合には、互いにリスペクトがあり、成長があり、未来がある。世界情勢は、目をそむけたくくなるような悲しく悔しい現実と直面しているが、こうしたスポーツ文化は、“平和への可能性と希望”を感じさせてくれるものの1つだ。本来、人類は皆、“仲良く”“建設的に”“幸せな人生”を送るべきであることを再確認する。

私自身、サッカーに特別詳しいわけではないが、今回の日本代表戦には、いつの間にか惹き付けられて見入っていた。また、人生折り返し地点を迎えた自分自身にとって、彼らの姿から“エール”を送られたように感じた。

“勝てば賞賛”“負ければ批判”は、サッカーに限らず、世の常と言えるだろう。そうした厳しい環境に晒されながら、前を見て、粛々と鍛錬を積み、“最悪の状況でも絶対に勝利を諦めない”“周りが何と言おうと、自分を、チームを諦めない”。こうしたメッセージをリアルタイムに、生身の人間ドラマを通じて今再び、心の底から感じ取れたことを幸運だと思う。

私は私のフィールド（舞台）で、後悔のない最高のプレー（仕事）をやり切りたい（自分の使命を果たしたい）と思う。人生の勝敗は、最後を迎えるその瞬間まで分からない。最高に満足のいく人生を生き抜けるように。また、それは、自分だけでなく、生まれてきた（生まれてくる）誰しものがそうであることを強く願いつつ。

“勝負はこれから！”最後まで、常に“新しい景色”を目指し、今日も一歩ずつ、力強く着実に歩を進めたい。

(T.T)

